

一般社団法人 日本神経精神薬理学会  
第 60 回理事会議事録

日 時 2015 年 4 月 22 日 (水) 14 : 00 ~ 17 : 00  
場 所 ソラシティカンファレンスセンター Room D  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河 4-6  
出席理事 石郷岡純、池田和隆、尾崎紀夫、加藤忠史、久住一郎、須原哲也、曾良一郎、  
武田弘志、中込和幸、新田淳美、橋本謙二、橋本均、橋本亮太、古屋敷智之、  
山田清文、吉岡充弘  
以上、16 名中 16 名出席  
出席監事 齋藤利和、松田敏夫  
以上、2 名中 2 名出席  
各種委員長 内田裕之、山脇成人  
議 長 石郷岡 純

上記のとおり理事の過半数の出席があり、本会議は有効に成立した。

議案

報告事項

1. 前回理事会 (第 58 回理事会議事録 (案)、第 59 回議事録 (案)) 議事録、持回り理事会議決事項の  
確認がなされ、異議なく承認された。
2. 第 44 回年会 (第 24 回日本臨床精神神経薬理学会との合同開催) 収支報告  
(株) コンベンションリンクージュ出席者 : 永川様、羽根様  
資料に基づき、収支・運営問題についての報告がされた。
  - 1) 今回の諸問題について JSNP・JSCNP 両学会参加者へは、お詫び状を送るべきとの要望が  
(株) コンベンションリンクージュ側で手配することとなった。
  - 2) 大会収支部分の監査について、学会監事のみでなく、公認会計士の監査も受けるべきとの意見  
あり、確認・検討することとなった。
  - 3) 今回の問題について、今後の業務改善と理事会で出された質問事項について回答書を提出して  
もらうこととなった。
3. 第 45 回年会 (第 37 回日本生物学的精神医学会との合同開催) 準備状況報告 (武田大会長)  
武田会長から年会概要について報告がされた。第 45 回日本神経精神薬理学会  
(第 37 回日本生物学的精神医学会と合同開催)  
テーマ : 精神・神経疾患におけるトランスレーショナルリサーチの実践と展開  
場 所 : タワーホール船堀  
日 時 : 2015 年 9 月 24 日 (木) ~ 26 日 (土)  
会 長 : 武田弘志 (第 45 回日本神経精神薬理学会会長)  
国際医療福祉大学薬学部学部長・教授 / 大学院薬学研究科研究科長  
中込和幸 (第 37 回日本生物学的精神医学会会長)  
独立行政法人国立精神・神経医療研究センター病院副院長
4. 各種委員会報告  
以下、提出資料に基づいて、各種委員会報告となる。
  - a. 執行委員会 (石郷岡委員長、山田委員、橋本謙二委員)
    - 1) 新旧委員長への依頼事項である、各委員会引継ぎ書、規定案、予算書について報告がなさ  
れた。

b. 総務委員会（山田委員長）

- 1) 会員報告（2014年11月1日から2015年3月31日）がなされた。  
会員数：1,134名（2014年1月31日現在）  
内 訳：名誉会員29名，功労会員27名，評議員228名，正会員734名，  
学生会員102名，賛助会員14社  
新入会：18名  
退 会：42名  
物故者：無し

c. 財務委員会（橋本謙二委員長）

審議事項1. 2014年度収支決算報告及び監査報告についてと併せ、報告・審議がなされた。

1) 2014年度収支決算について

(1) 一般会計

2014年度合同年会収支決算事案に関連し、余剰金収入額が決定していないため、運営事務局からの情報に基づき余剰金を概算計上した決算案を提出したが、承認を先送りとした。

合同年会収支決算事案解決後、確定した余剰金額を計上したうえで、持回り理事会に諮ることとなった。法人化後初めての決算であるため、必要があれば、公認会計士への相談も視野へ入れることになった。

(2) 振興基金

決算書案に特に問題は無く、異議なく承認された。

2) 2014年度監査報告について

齋藤・松田監事による監査の結果、基金会計については収支の記載が適正であると認められたことが報告された。一般会計の監査は、上述の通り合同年会収支決算が確定後に行うことになった。

d. 編集委員会（古屋敷委員長）

- 1) 経費削減のため学会誌のオンライン化を課題とし、編集委員会内で引き続き、検討していくことになった。
- 2) 投稿規定に利益相反の取扱いが明記されておらず、改訂の必要がある。編集委員会での議論後、倫理委員会で確認をとり、理事会へ提出することになった。

e. 広報委員会（橋本亮太委員長）

- 1) 2013年度に制定・施工した「ホームページ運用マニュアル」、「会員メール配信運用マニュアル」に基づき、今後の広報委員会内での業務遂行方針についての報告がされた。

f. 倫理委員会（尾崎委員長）

- 1) 現在、議論となっている倫理指針・倫理的配慮について、現在、当会で定めて倫理規定との整合を図る。
- 2) 特に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」については、学会としても早急な対応が求められていることから、次回年会までに何らかの方針・活動が提出できるよう委員会内で継続していくことが報告された。

g. 国際学術委員会（山脇委員長）

- 1) 4月に開催されたCINP向精神薬開発イノベーションサミットの開催報告がされた。
- 2) 神経精神薬理振興基金から100万円を拠出することを持ち回り理事会で承認いただいたが、CINPサミットに対して多くの企業から賛同をいただき、主催組織内で経費を収めることが出来、関係各位へ謝辞が述べられた。
- 3) 本拠出金については、CINP/JSNP合同向精神薬開発の産学官連携(PPPs)タスクフォースを設立準備金として使用したいとの提案がなされ、承認された。

h. 学術賞選考委員会(吉岡委員長)

学術奨励賞への応募が1件のみである状況が報告され、委員長より締切り延長の提案があり、理事会承認された。

当初期日：2015年3月31日(火)※消印有効

延長期日：2015年5月31日(日)※消印有効

i. 企画(研究推進)委員会(久住委員長)

本委員会のミッションは、企画・研究推進を検討していくことから、以下の項目について、委員会内でディスカッションを行った。

- 1) 本学会の理念をどのようにしていくか? 何か適切なキーワードはないか?
- 2) 本学会としての社会貢献・情報発信をどのようにしていくか?
- 3) 本学会として、若手研究者や医療従事者(薬剤師なども含め)の教育にいかにかかわるか?
- 4) 今後、年會をどのように行っていくことが望ましいか?
- 5) 学会誌をどのようにしていくか?
- 6) 賛助会員のあり方をどうするか?
- 7) その他

- (1) 学会が啓発・教育・情報発信を通じて、精神神経分野での医師・研究者主導臨床研究をGCP準拠で実施できる環境の構築に取り組むことが必要である。
- (2) 企業研究者が創薬するうえで臨床現場の実際を知ることは必須だが、その機会は多くはない。それゆえ、学会でそのような機会を提供する教育セミナーを増やせば、企業研究者からの年會参加者は増え、学会会員が増える可能性がある。
- (3) 活発な国際連携活動が本学会の強みであり、今後も継承・発展することが重要である。

j. トランスレーショナル・メディカルサイエンス委員会(石郷岡理事長、中込委員長)

現在製薬企業1社から打診を受けており、契約の締結に向けて、実施内容等のヒアリングを進めていることが、報告された。

k. 薬剤師ワーキンググループ委員会(吉尾委員長)

日本病院薬剤師会との早急な連携に進めている。既に2014年より連携について関係者との相談を進めているが、日本精神科病院協会との関係について懸念する意見があったことから、日本病院薬剤師会精神科専門薬剤師部門でも検討中であることが報告された。

l. 統合失調症ガイドライン作成タスクフォース(石郷岡議長)

ガイドラインの進捗状況につき、以下の報告がなされた。

昨年より統合失調症治療に関して、日本の医療事情に合わせた診療ガイドラインの必要性を鑑み、ガイドラインを作成することが理事会で決定された。

統合失調症の治療は、薬物療法のみで行われるものではなく、ガイドラインも包括的なものであるべきであるが、本ガイドラインは比較的薬物治療(およびECT)に限定して作成することになった。統合失調症の薬物治療ガイドライン作成タスクフォースを結成し、統合失調症学会の代表者にもご参加いただき、章ごとの小委員会にて合意形成された案について検討を行い、その検討案を受けて、各章の小委員会で練り直していただくという作業を繰り返した。

先月には本学会員および日本統合失調症学会会員に対して、3月時点でのガイドライン案を提示し、ホームページ上での意見募集を行った。2016年度中の発刊をめざし、作業を進めている。

m. Nomenclature ワーキンググループ委員会(内田委員長)

- 1) ECNP、ACNP、AsCNP、JSNP、CINP 合同で定期的に会議を開催していく。
- 2) ECNP 主導で作成している Neuroscience based Nomenclature の日本語版の監修を行っている。日本語版は製本せず、WEB 上での公開を予定している。

n. 利益相反マネジメント委員会(石郷岡理事長)

利益マネジメント委員会発足の提案がなされ、承認された。委員長の選任については石郷岡理事長へ一任されることとなった。

5. 第46回年会(第30回国際神経精神薬理学会(CINP)と同時開催)準備状況報告(池田次期大会長)  
会期:2016年7月2日(土)~3日(日)  
会場:COEX、ソウル港南地区  
年会長:池田和隆(公益財団法人東京都医学総合研究所)  
事務局長:笠井慎也(公益財団法人東京都医学総合研究所)  
運営業務委託業者:株式会社エー・イー企画(日本側)、MECI(韓国側)
6. 国際対応について(池田副理事長/AsCNP事務局長)  
AsCNP2015台湾大会について資料に基づき、準備状況について報告がなされた。  
会期:2015年11月20日(金)~22日(日)  
会場:Taimei International Convention Center (TICC)  
Chair: Shih-Ku Lin

#### 審議事項

1. 2014年度収支決算報告及び監査報告について  
報告事項・財務委員会報告に同じ。
2. 委員会規定の改訂について  
法人化に伴い各種委員会活動について、労力等の負荷の差が出ないように公平な活動を目指していくため、各種委員会規程の整理・見直しを行った。各委員長から担当委員会の規程案が提出され、原案のどおり各規程案が承認された。
3. 今後の年会の在り方について  
執行委員会、企画(研究推進)委員会の意見も含め、自由な意見交換を行った。
  - ▶ 多数の学会が存在する現状では合同開催が望ましいが、どの学会と組むかを戦略的に考えていくことが必要である。
  - ▶ 数年ごとにテーマを決めて相手をフレキシブルに変えていく方法やこれまで合同開催実績のある学会との合同を支持する意見が多い。
  - ▶ 直近の方向性としては、生物学的精神医学会と合同していただくことが望ましいという意見がある。一方、単独開催から遠ざかると、学会自体の弱体化を招く可能性を指摘する意見もある。
  - ▶ 「合同」を基本として考えるのではなくNP単独開催も視野にいれ検討していく必要がある。
  - ▶ 今後NPが学会として進む方向性も検討していく必要がある
  - ▶ 基礎的な内容が多いプログラムだと臨床系の先生方の足が遠のく懸念がある。
  - ▶ 2015年はBPとの合同、2016年はソウル大会となることもあり、臨床系の先生方の参加が減ることが懸念される。
  - ▶ 教育セッションを設け、若手の研究者の参加を増やしたいが、教育セッションを増やすと学会の質が変化する懸念がある。
  - ▶ 発表内容の質を高いものに限定し参加自体を狭き門にするより、発表レベルの低いものも増えるものの、ポスターセッションのテーマ範囲を広げるなど、若手の参加者を増やしたい。
  - ▶ 数年に亘って継続性のある企画があってもよい。
  - ▶ アカデミック以外の方も参加しやすい年会を目指し、参加の窓口を広げたい。引き続き、意見交換の場を設けていくこと。今後の年会開催に活かしていく必要があるとの意見の確認がなされた。
4. ラミクタールに関する学会ステートメントのホームページ公開について  
3月10日、3月24日開催の持ち回り理事会において、うつ病学会・臨床精神神経薬理学会との連名ステートメントをホームページ上に公開することが承認された。  
※本件については、4月24日にホームページへ掲載された。

5. 日本神経科学学会との連携について

- 1) 3月11日開催の持ち回り理事会で日本神経科学学会との連携について承認された。  
その後、日本神経科学学会 田中啓治会長へ連携申出書を提出し、合意書を頂いた旨の報告がなされた。  
(連携内容)  
(1) ホームページおよびニュースの郵送の際に相互の大会案内を送付する。  
(2) 両学会の大会において合同企画を行う。  
(3) 相手法学会の学会員に、大会参加の際に入会金とその年の年会費を無料にする特典を付与する。  
※いずれも2016年から3年間に限る
- 2) 第45回大会へ田中啓二先生と、定藤規弘先生を本会負担で招聘することが承認された。

6. 日本睡眠学会との連携について

- 1) 3月11日開催の持ち回り理事会で日本睡眠学会との連携について承認された。  
日本睡眠学会/井上雄一理事長、日本神経精神薬理学会/石郷岡純理事長の連名で、第40回日本睡眠学会会長、第45回日本神経精神薬理学会会長、第37回日本生物学的精神医学会会長宛に提出された連携プロジェクトー合同シンポジウム相互開催の提言ーについての説明がされた。  
(1) 連携の趣旨は、睡眠薬その他の睡眠障害治療に関して、両学会が相互補完的に連携しながら議論を進め、国民の健康増進に寄与するためとする。  
(2) 第46回日本神経精神薬理学会年会へ柳沢正史先生を招聘する事が報告された。
- 2) 今後の連携の在り方に関する合同会議については、2回のシンポジウムの参加者にアンケートを行い、連携に関する調査を行うとともに、今後の進め方を議論し、次年度以降の事業計画に反映していくことが報告された。

7. Public-Private Partnerships (PPPs) 設立準備について

- ※国際学術委員会報告参照のこと。  
4月14日開催の持ち回り理事会にて設立と、設立準備金として日本神経精神薬理学会振興基金より100万円拠出することが承認された。  
担当：国際学術委員会  
趣旨：産学官、規制機関、医療従事者、患者、患者家族会のそれぞれ代表者で構成されるPublic-Private Partnerships (PPPs)を構築して向精神薬開発の良い体制作りを目的とする。

8. クロザピンのCPMSデータの論文化について

- 1) ノバルティス社からクロザピンのCPMSデータを提供してもらい、論文化してほしいとの依頼があった。概要としては、同社がクロザピンで実施しているCPMSという登録システムのデータを、論文化するため、アカデミアへの協力依頼となる。TMSCの活動もあり、当会の存在意義にも繋がること、企業からのこのような希望・問い合わせは歓迎し、推奨していくべきとのことから、本申し出について、受託することが承認された。
- 2) 具体的な手続きや契約内容・窓口については、石郷岡理事長に一任されることになった。

9. 名誉会員・功労会員推戴の件

- 例年の手続きに従い、推薦資格を有する先生方へ名誉会員・功労会員の移行希望についてご意向を伺った。  
名誉会員への移行は2名、功労会員への移行3名の先生方から御快諾を得たので、評議員会/総会へ推戴候補者として諮ることが報告され、承認された。  
名誉会員：小山 司、野村総一郎  
功労会員：片岡 泰文、丹羽 真一 (五十音順)

10. 新評議員の承認の件

- 以下の8名が推薦され、審議の結果、新評議員として評議員会へ推薦することが承認された。  
(敬省略)  
井手聡一郎(北海道大学大学院薬学研究院)/推薦評議員：池田和隆、南雅文  
清水 邦夫(防衛医科大学校)/推薦評議員：石郷岡純、池田和隆

上園 保仁(国立がん研究センター研究所)/推薦評議員：石郷岡純、池田和隆  
宮崎 育子(岡山大学大学院医歯薬学総合研究所)/推薦評議員：浅沼幹人、北村佳久  
佐藤 敦志(東京大学医学部付属病院小児科)/推薦評議員：石郷岡純、池田和隆  
中村 和彦(弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座)/推薦評議員：石郷岡純、池田和隆  
金田 勝幸(金沢大学医薬保健研究域薬学系薬物学研究室)/推薦評議員：池田和隆、南 雅文  
黒川 和宏(川崎医科大学薬理学教室)/推薦評議員：大熊誠太郎、鈴木 勉

平成 27 年 4 月 22 日

一般社団法人 日本神経精神薬理学会 理事会

議長	代表理事	石郷岡	純
	出席理事	池田	和隆
	出席理事	尾崎	紀夫
	出席理事	加藤	忠史
	出席理事	久住	一郎
	出席理事	須原	哲也
	出席理事	曾良	一郎
	出席理事	武田	弘志
	出席理事	新田	淳美
	出席理事	橋本	謙二
	出席理事	橋本	均
	出席理事	橋本	亮太
	出席理事	古屋敷	智之
	出席理事	山田	清文
	出席理事	吉岡	充弘
	出席監事	齋藤	利和
	出席監事	松田	敏夫